

トルコのイスラーム運動と ギュレン派

ジェトロ・アジア経済研究所
トルコ・セミナー

2016年8月31日 能勢 美紀
(図書館 中東地域ライブラリアン)

トルコ共和国成立の過程

1914-18年 第一次世界大戦(敗戦国)

1920年 セーブル条約→領土の大半を喪失
+ギリシアの侵攻、

ムスタファ・ケマルによる抵抗運動

1922年 スルタン制の廃止(オスマン朝終焉)

1923年 ローザンヌ条約(現トルコ国境の確定)
トルコ共和国成立

トルコ共和国の国家理念：ケマリズム

- 六原則

共和主義 Cumhuriyetçilik

国民主義[民族主義] Milliyetçilik

人民主義 Halkçılık

国家主義[エタティズム] Devletçilik

世俗主義 Laiklik

革命主義 İnkılapçılık

「文明化」への必須条件＝世俗主義

- 世俗主義...政教分離(ライシテ)に着想

トルコとヨーロッパを隔てる最大の障壁＝宗教

→アタテュルクが断行した改革事業の大部分は、直接・間接的に宗教と関連。

その一つとして、**スーフィー教団(タリーカ)の修道場や聖者廟の閉鎖**(「狂信者の巣窟」)

タリーカ閉鎖の影響とその後

- トルコ人の伝統的な信仰生活に大きな打撃。
- 多くのトルコ人にとって甘受しえない。

→ 禁止されているはずの教団活動が、アタテュルク時代にはひそかに、今日に至っては公然と行われる。

・・・イスラーム運動(ヌール運動[ヌルジュ]、
ギュレン運動[フェトウツラージュ])

複数政党制時代(1940年代後半)～

- 「票田」としてのイスラーム

→アタテュルク時代の世俗主義の緩和

- トルコ国民のイスラーム意識の高揚

⇒トルコ社会の「イスラーム化」

・・・「行き過ぎ」と判断されると強権(軍事クーデタ)が発動されるというサイクルを繰り返しつつ進展。

代表的なイスラーム運動(ヌルジュ)

- サイド・ヌルスィー(1876/77-1960)が指導者。
 - 『リサーレイ・ヌル(光の書簡)』指針とする信仰運動あるいは自己発見運動
 - 自然科学の認識に照らしてクルアーンを解釈。近代科学の成果としての「科学的事実」がクルアーンの章句の中にすでに示されていることを論じる。=近現代クルアーン解釈の特徴
 - 科学技術、特に印刷・出版技術の奨励。
 - 新聞・雑誌の刊行。
- メディアを利用した宣教活動は、当時は画期的。

ギュレンの経歴

1938年 トルコ東部エルズルム県生まれ。

1969年 イズミルで宗務庁の説教師を務めていた際、『リサーレイ・ヌル』の授業を行う。

1971年 宗教宣伝および宗教結社の設立を行った嫌疑で逮捕、有罪判決。(7か月の拘束の後、釈放。)

1970年代 雄弁な説教がカセットテープに録音され、ダビングを重ねて人づてに普及。側近を増やし、実業家たちの広範な支持。

1974年 「新アジア・ジェマート」から独立。

1980年 軍事クーデタ。イズミルの戒厳令法廷の嫌疑者名簿に。訴追は免れるが、1986年に嫌疑が晴れるまで身を隠すことを強いられる。

ギュレン派（フェトツラージュ）

- ヌルジュの一分派。（1970年代に台頭。）
- ラーイクリッキの肯定。（イスラーム主義者としては異例。）
→「政教分離下での信教の自由」
- 「トルコ・イスラーム総合」論の支持者。
- 宗教指導者として「寛容と対話」を強調。
- メディアの積極的な活用。
- マスメディア、企業、金融機関、学校などを所有・経営→
「イスラーム資本」の形成。
- 他の分派とは運動方針において顕著な相違。
 - ● ● 徹底した**権力への恭順・妥協主義**

1980年クーデタ

△世俗主義の護持

○70年代に泥沼化した左右対立の収拾

・・・1960年、71年のクーデタとの大きな違い

→左翼勢力・クルド民族主義に対する対抗イデオロギー、
国民統合のための求心力としての「イスラーム」

→「トルコ・イスラーム総合」論の国による宣伝。

→イスラーム勢力には比較的穏健な態度。

ギュレン派の発展（1990年代）

- イスラーム勢力に対する穏健的な態度

→最新のメディアを活用した宣教や経済活動に積極的だった教団・ジェマートが発展。

=ギュレン派

1990年代の半ば以降の一時期、世俗主義体制側は、ギュレンを「イスラーム主義者の優等生」として大いにもてはやす。⇔福祉党系勢力

ギュレン系とされる組織

- メディア

『ザマン』紙

サマンヨルTV

ブルチュFM

『湿潤(スズントウ)』誌

『行動(アクスヨン)』誌

- 金融機関

アスィヤ・フィナンス

- 教育機関

ファーティヒ大学(イスタンブル) など

体制との関係の変化

2000年、検察庁はギュレンを体制転覆と、イスラーム法に基づく国家樹立を謀ったとして起訴。

(ギュレンは捜査が開始された1999年から「病気療養のため」渡米。現在まで米国在住。)

2002年 AKP単独与党。

→ギュレン派の政治的影響力の増大。

AKPとの「協調・協力」関係。

AKPとの対立

- 「エルゲネコン」、「鉄槌」裁判
- ・・・捏造証拠による世俗主義者の粛清

→「やりすぎ」

ギョレン派に対する不信感、警戒感

2013年後半から対立が激化。

→AKP政権によるギョレン派の駆逐が進む。

2016年7月 「最後のあがき」？クーデタ未遂。

クーデタ未遂後の対応

- 「FETÖ (Fetullahçı Terör Örgütü) ギュレン派テロ組織」と認定された組織の閉鎖。
- ギュレン系とされる人々の逮捕・拘束

疑わしい組織・人物も含めある程度広範な取り締まり。

→「ギュレン系」とされる人々の中に「世俗主義者」が含まれているとの批判も。

→今後の裁判の過程に注目。

ギュレン派・ギュレン自身の動向も。